

HOW

2006
vol.25

「女性の
チャレンジ支援」

Let's
challenge!!



わたしたちだって働きたい!

チャレンジしたい女性のパワー、眠らせておくのはもったいない!

家事や育児に忙しく、「もう一度働きたいけど、今は働けない」
「本当は、もっとバリバリ働きたい」という女性はたくさんいます。
どうすれば「もう一度」「もっと」働きたい女性たちが、能力を発揮できるのか。
そして、働きたい女性を応援することは、
男性にとって、企業にとってどんなメリットにつながるのか。
今回は、地元・東大阪の大学生も取材に参加し、
未来を担う若者たちの視点から、市民の皆さんや働く女性たちの声を集めて
「女性のチャレンジ支援」について考えてみました。

チャレンジママとアイデア社長



女性が元気でみんな元気!

女性のチカラが、企業の未来を元気にする

いま話題の「2007年問題」。団塊の世代が2007年をピークに大量定年を迎えて企業が人材不足に陥る、といわれている問題ですが、それに加え将来の日本社会においては、少子高齢化による深刻な労働力不足が心配されています。その一方で、働きすぎでへトへトになっている男性たちや、能力をじゅうぶん活かさずにいる女性たち。この矛盾を解決するには、どうすればいいのでしょうか。

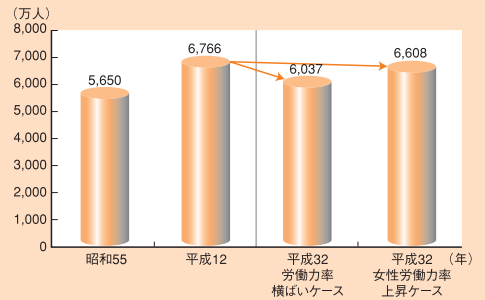


図2: 労働力人口の推計 (男女共同参画白書 平成18年版より)

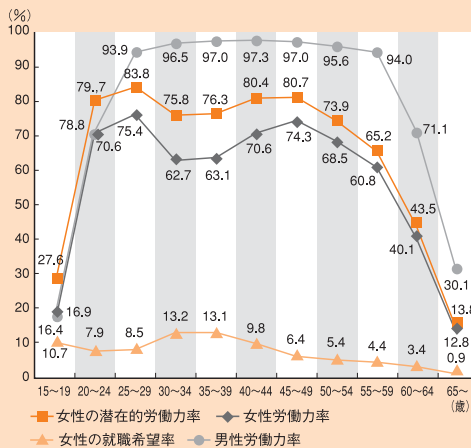


図1: 女性の年齢階級別潜在的労働力率 (男女共同参画白書 平成18年版より)

30代を中心とする子育て世代には、「働きたいけど、働けない」という女性が少なからず存在し、いわば「眠れる労働力」となっているのが現状です。しかし、企業が積極的に彼女たちのチカラを活用するためには、これまで主として男性が担ってきたような、長時間労働で仕事中心型のライフスタイルをそのまま女性にも当てはめる、というわけにはいきません。働き方の見直しを図り、仕事と家庭、どちらもバランスの取れた生活を実践することは、労働力不足の解消となるばかりでなく、女性にとっても男性にとっても、個々がイキイキと能力を発揮できる、働きやすい職場環境の実現へとつながるのです。